

玉川大学APフォーラム2017

「教職課程における アクティブ・ラーニングと 学修成果の可視化」



—学校現場における「主体的、対話的で深い学び」と教員 養成段階におけるアクティブ・ラーニングを踏まえて—

平成27年12月に中教審から3つの答申がなされました。そのなかで「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」では、「子供たちに、知識や技能の修得のみならず、これらを活用して子供たちが課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導力を身に付けることが必要」であり、「その際、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の視点に立った指導・学習環境の設計やICTを活用した指導など、様々な学習を展開する上で必要な指導力を身に付けること」が求められています。教員の養成段階における大学の授業ではアクティブ・ラーニングの導入が推進されてきているものの、それを受講している学生たちが実際に学校現場でICT機器の活用を含めた「主体的、対話的で深い学び」を実施できるように訓練されているかということは十分とは言えない状況にあるのではないのでしょうか。このフォーラムでは、教員養成機関である大学のアクティブ・ラーニングから初等・中等教育における「主体的、対話的で深い学び」を俯瞰し、学校現場の事例報告を通して、教員養成段階におけるアクティブ・ラーニングと学修成果の可視化について、皆さんと理解を深めていきたいと考えています。

日時 **2018年3月7日 水**
13:00～15:55

会場 **玉川大学 大学教育棟 2014 602教室**

対象 **大学・短期大学の教職員およびその関係者**

先着
100名
参加費無料

主催：玉川大学

お問い合わせ：玉川大学教育学部教育学修支援課

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

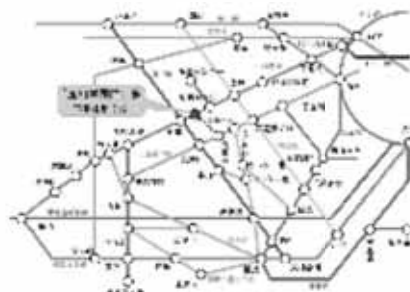
TEL: 042-739-8866 E-mail: il-supports@tamagawa.ac.jp

プログラム

- 13:00 開会挨拶 玉川大学 教学部長 稲葉 興己
- 13:05 基調講演 **「アクティブ・ラーニングをどのように推進するのか」**
 玉川大学大学院教育学研究科・教育学部 教授
 同 教師教育リサーチセンター センター長
 独立行政法人教職員支援機構 評議員
 同 次世代型教育推進センター アドバイザリーボードアドバイザー 森山 賢一
- 13:45 休憩
- 14:00 事例報告 **実践フィールド校における「主体的、対話的で深い学び」の取り組み**
 独立行政法人教職員支援機構次世代型教育推進センター研修協力員
 稲岡 寛 (秋田県・小学校)
 織田 克彦 (千葉県・高等学校)
 宮迫 隆浩 (鹿児島県・中学校)
- 15:10 **教員養成課程におけるアクティブ・ラーニングと学修成果の可視化**
 玉川大学教育学部 准教授 田畑 忍
- 15:50 閉会挨拶 学校法人玉川学園 高等教育担当理事 菊池 重雄
- 15:55 終了

会場アクセス [玉川大学 大学教育棟 2014 602教室]

- ※新宿より(約30分)
 小田急線「新百合ヶ丘」駅にて(各駅停車)〈準急〉に乗り換えて、
 「玉川学園前」駅下車
- ※小田原より(約60分)
 「町田」駅にて(各駅停車)〈準急〉に乗り換えて、
 「玉川学園前」駅下車
- 「玉川学園前」駅 北口より、新宿方面へ進み、徒歩約3分



参加お申し込み方法・お問い合わせ先

参加をご希望の方は電子メールにて下記項目を記載の上、お申し込みください。

- ①氏名(フリガナ) ②所属 ③職名 ④職種(教員・職員・学生・その他) ⑤メールアドレス
 メールタイトルを「APフォーラム参加申込み」としてください

※送信アドレス tamasympo@tamagawa.ac.jp

※お申込みの際にお知らせいただきました個人情報は、
 フォーラムの集計および案内を目的とした運営のための利用以外には一切使用いたしません。

玉川大学教育学部教育学修支援課

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL: 042-739-8866

E-mail: il-supports@tamagawa.ac.jp

2018年
2月28日(水)
 締め切り

玉川大学APフォーラム2017

於:玉川大学

平成30年3月7日(水)

アクティブ・ラーニングを どのように推進するか

玉川大学大学院教育学研究科・教育学部教授
玉川大学教師教育リサーチセンター長
(独)教職員支援機構 次世代型教育推進センター
アドバイザー・ボードアドバイザー

森山 賢一

1. 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの 審議のまとめについて(報告)』をどう読むか。

(1)「社会に開かれた教育課程」の実現

- ・社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していく。
- ・これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自らの人生を切り開いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し、育んでいく。
- ・教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりして、学校教育を学校内に閉ざさずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる。

(2) 主体的・対話的・深い学び

- ・「何を理解しているか」(知識・技能)
- ・「知っていることをどう使うか」(思考力・判断力・表現力等)
- ・「どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」
(学びに向かう力や人間性)



- 資質・能力をいかに総合的に育んでいくか
- カリキュラム・マネジメントを通した「社会に開かれた教育課程」の編成
- 学習改善のための視点としてのアクティブ・ラーニング

3

(3) 新教育課程編成・実施にあたっての留意点

- ・教育目標を社会や世界の状況を幅広く視野に入れる、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る視点から設定する。
- ・資質能力の3つの柱、各教科等で育成する資質・能力を重視し、各教科書の指導計画に具体的に位置づける。
- ・カリキュラム・マネジメントを教育課程に位置づけ、学校・家庭・地域が一体となる取り組みを進める。

4

2. 学習指導要領「総則」の抜本的な改善

(1) 新総則の柱となる6つの軸

- ①「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)
- ②「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)
- ③「どのように学か」
(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)
- ④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」
(子供の発達を踏まえた指導)
- ⑤「何が身についたか」(学習評価の充実)
- ⑥「実施するためには何が必要か」
(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

2. 学習指導要領「総則」の抜本的な改善

(2) 学習評価を多面的に見取る評価へ

- ・すべての教科において、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3視点に整理
- ・教科等目標や指導を学校教育法第30条第2項が定める「学力の3要素」に基づいた構造化
- ・目標に準拠した評価の実質化
- ・教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取り組みの促進
- ・子供の学習意欲の喚起から変化

2. 学習指導要領「総則」の抜本的な改善

(3) 学びの地図と各教科等の見方・考え方

・「学びの地図としての枠組」に基づき、教育課程編成・実施・評価を進める

・「学びの地図としての枠組」…何ができるようになるか
何を学ぶか
どのように学か
何が身に付いたか

・「何を学ぶか」…「各教科等の見方・考え方」を明確化
指導改善の活性化

7

3. アクティブ・ラーニングは高等教育から？

(1) アクティブ・ラーニングの定義

a)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換
に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力
を育成する大学へ～(答申)』

8

平成24年8月28日中央教育審議会用語集

①「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」

9

b)『アクティブ・ラーニングと教授学習のパラダイムの転換』 溝上慎一(東信堂)2014年

②「一方向的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化が伴う。」

10

(2) アクティブ・ラーニングの強調される背景

a)『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)』中央教育審議会 平成26年12月22日

③「18歳頃における一度限りの一斉受験という特殊な行事が、長い人生航路における最大の分岐点であり目標であるとする、我が国の社会全体に深く根を張った従来型の「大学入試」や、その背景にある、画一的な一斉試験で正答に関する知識の再生を一点刻みに問い、その結果の点数のみに依拠した選抜を行うことが公平であるとする、「公平性」の観念という桎梏は断ち切らなければならない。(中略)「一点刻み」の客観性にとらわれた評価から脱し、各大学の個別選抜における多様な評価方法の導入を促進する観点から、大学及び大学入学希望者に対して、段階別表示による成績提供を行う。」

b) 学習指導要領の変化—特に「学力観」の変化 学力の三要素から構成される「確かな学力」

- ・基本的な知識、技能の習得
- ・課題を解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の育成
- ・主体的に学習に取り組む態度、学習意欲の育成

c)PISA、全国学力・学習状況調査等の国内外の学力調査 論理的・批判的な思考力、学習意欲等

d)キーコンピテンシーをはじめとする資質・能力の育成
「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」へ

e)『産業界の求める人材像と大学教育への期待に
関するアンケート結果』経団連
平成23年1月18日

社会人に求められる基礎的な能力(社会人基礎力)として、
主体性、コミュニケーション能力、実行力、協調性、課題解
決能力等があげられた。

13

f)『これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待』
経済同友会 平成27年4月2日

大学教育に関して求めた一つに、「アクティブ・ラーニング
の導入によるコミュニケーション能力の向上」がある。

14

4. 古い問題の新しい解決を探るアクティブ・ラーニング

a)大正自由主義教育

b)第二次世界大戦後の新教育

c)平成8年7月 中教審第1次答申

「〔生きる力〕の育成を基本とし、知識を一方的に教え込むことになりがちであった教育から、子供たちが、自ら学び、自ら考える教育への転換を目指す。」

「これからの子どもたちに必要となるのは、いかに社会が変化しよう、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり…」

15

d)平成9年11月 教育課程審議会

教育課程の基準の改善のねらい

「これからの学校教育においては、多くの知識を教え込むことになりがちであった教育の基調を転換する必要がある。そして、学習者である幼児児童生徒の立場に立って、その発達の状況に応じて、知的好奇心・探究心をもたせ、自ら学ぶ意欲と主体的に学ぶ力を身につけるとともに、論理的な思考力、判断力、表現力、問題を発見し解決する能力を育成し、創造性の基礎を培い、社会の変化に主体的に対応し行動できるようにすることを重視する必要がある…」

各学校段階、各教科等においては体験的な学習、学び方や問題解決能力の育成を重視した学習を進め…」

16

e)古い問題とは、過ぎ去った問題ではなく、昔から今日まで一貫して問われ続けてきている問題。

いつも変わらない基本問題が、新しい状況の下、新しい観点と方法によって新しく答えられていくところに教育の改善、改革ということの独自性がある。

今、当面している問題について、教育に関する考察と実践の長い歴史の中でどのような問題点が取り上げられ、吟味されてきたかを十分に承知してかかりたいからである。

『教育実践学』高久清吉(教育出版)1990年

17

5. アクティブ・ラーニングの学習指導論的考察

アクティブ・ラーニングの主張を主体的に受け止め、展開するためには、学習指導論(教授学)の立場から体系的な把握が必要。

(1)学力の中心要素

「学習内容」の習得・内容の質—基礎的・本質的内容

・習得の状態—構造的習得

「学習者」の変容—学ぶ意欲、態度の伸長

学ぶ能力、方法

18

(2)「学習内容習得」と「能力・方法習得」との結合 —実質陶冶と形式陶冶の統一をめぐって—

「実質陶冶」—学習の客観面・内容重視

- ・客観主義の実質陶冶
- ・古典的実質陶冶

「形式陶冶」—学習の主観面・学習者重視

- ・機能陶冶(能力陶冶)
- ・方法陶冶

形式陶冶の中心問題—学習の過程重視

19

(3)「学習の過程を大切にすることの意味

- ・児童生徒の活発な、しかも目的の実現を目指す意味のある自己活動が生き生きと展開する過程
このような過程の組み立てが授業者としての教師の仕事
- ・児童生徒の活発な意味のある自己活動の展開と、目指す知識や技能の習得とを一つにすることである。この両者が合一する最もよい形は、児童・生徒の自己活動を通し、「あたかも初めて見つけた(創り出した)かのようにして」知識や技能が習得されることである。
- ・児童生徒が主体または主役となる授業—目的の実現を目指す意味のある自己活動が活発に展開する授業
- ・児童生徒の自己活動に対する教師の働きかけの最も重要なものは授業において子どもがたどるべき課程を構造的に組み立てることである。
学習過程を構造的に組み立てる様式

20

6. 児童生徒主体の授業改善の中心課題

(1) わかる授業とは何か

- ・消極的意味—ついていけない子どもをなくそうとする授業
- ・積極的意味—生きた学力の習得と直結するような質の高いほんもののわかり方を目指す授業
- ・「はっきりわかる」→「広くくわしくわかる」とことと異なる
構造体として筋道立てて理解する
- ・「深くわかる」 →「学習内容の本質によって心の底まで
揺り動かされる」
「全心的理解」

21

(2) 「わかる」とはどのようなことか

- ・「わかる」とは、何かを感じる、気がつくこと。
- ・「わかる」とは「イメージ」ができること。
- ・「考える」とは「イメージ」を動かすこと。
- ・「わかる」とは「関連する世界が広がること」

(3) 「理解する」とは「解釈する」ということ

- ・「解釈」は学ぶことの総体と関連する。

22

(4) わかる授業をどのように進めるか

(1) 授業・学習の構造化と個別化

- ・教材の構造化
- ・諸要素の組織化、単なる組織化ではなく諸要素を中心
的(本質的・基礎的)要素と補助的(追隨的・派生的)要
素とに分けて統一的に組織化する
- ・「中心要素としての一般的内容」と「補助要素としての特
殊的内容」

(2) 教師の熱意—楽しい授業

(3) 生徒の集中力を持続する授業

23

ご静聴ありがとうございました。

発表「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」

資質・能力の育成を目指す

主体的・対話的で深い学びの実現

全国の授業改善に見られる共通点

 このマークが付いている事例は、次世代型教育推進センターホームページで授業の詳細を公開しています。

★ このマークが付いているスライドは、配付資料にはありません。スクリーンをのぞいてください。



1

全国の授業改善に見られる共通点



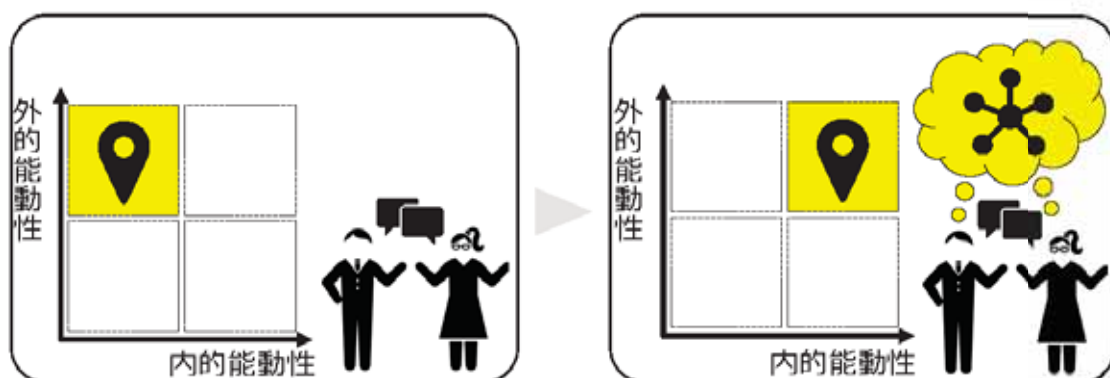
子供の視点に立ち、学びを問い続ける教師

- 1 体のアクティブ化から 頭もアクティブ化へ
- 2 形だけの振り返りから 学んだ手応えの自覚へ
- 3 本時レベルから 単元レベルの学びへ

2

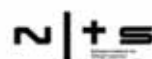
1 体のアクティブ化から 頭もアクティブ化へ

1 ①体のアクティブ化から 頭もアクティブ化へ



- ・プロジェクト開始当初は外的能動性を高める事例が目立ったが、内的能動性も含めた授業改善へと変わってきた。
- ・対話によって、思考がどのように広がったり深まったりするのかをイメージした授業づくりが進んでいるためではないか。

1 ②思考の広がりや深まりを促すアプローチ例



みんなで考えたくなる問い



友達の意見を聞いて
自分の意見も
言いたくなる。

中心にあるのは
みんなで考えたくなる
問い。



中学校・1年・社会科
じっくりと深く考える学びの実現へ

欲しい情報を手に取れる環境



自分の動きは
見えないけど
これならよく見える。

遅れて再生する機能で
映像による即時的な
フィードバック。



中学校・1年・保健体育科
武道における多面的・多角的な思考力の育成を目指して

いろんな考えを整理できるツール



見える。
動かせる。
まとめられる。

いろんな考えを
整理できるツール。



小学校・3年・総合的な学習の時間
ふるさとに学び、主体的・対話的に問いを
発見・解決できる子供の育成を目指して

5

情報の収集

～地域へ出かけて「西目のおいしさ」を取材しよう～



いろんな考えを整理できるツール

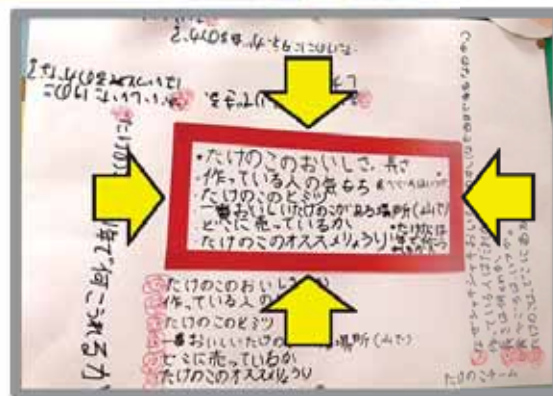
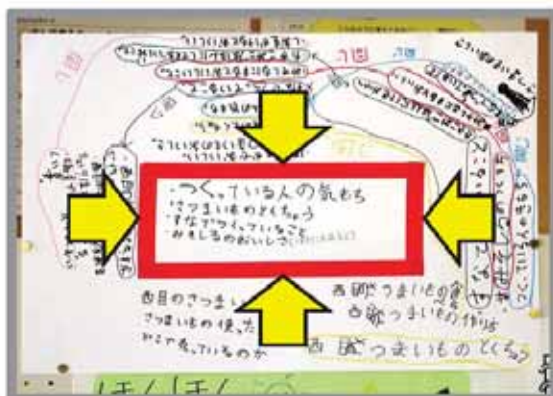
小学校・3年・総合的な学習の時間
「西目のすてき みつけたよ！～西目のおいしさ 大集合！～」 6

整理・分析

～ボックスチャートで取材内容を整理しよう～



僕たちが伝えたいことは何かな？



いろいろな考えを整理できるツール

小学校・3年・総合的な学習の時間

「西目のすてき みつけたよ！～西目のおいしさ 大集合！～」 7

整理・分析

～ピラミッドチャートで「伝え方」を話し合おう～



どうやって伝えればいいのかな？



伝える
方法

理 由



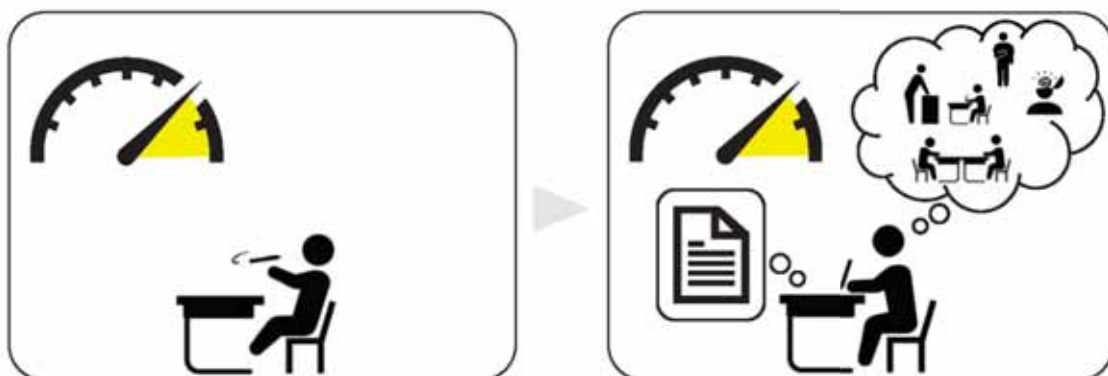
いろいろな考えを整理できるツール

小学校・3年・総合的な学習の時間

「西目のすてき みつけたよ！～西目のおいしさ 大集合！～」 8

2 形だけの振り返りから 学んだ手応えの自覚へ

2 ①形だけの振り返りから 学んだ手応えの自覚へ



- ・プロジェクト開始当初は形式的に振り返りを設定する取組が見られたが、学んだ手応えの自覚化を目指す授業改善へと変わってきた。
- ・子供自身が学んだ手応え（ポジティブ感情）を得ることの必要性が理解されてきたため。

2 ②学んだ手応えの自覚を促すアプローチ（例）



自分とつながる視点



変わった自分。
変わったきっかけ。
変わった理由。

振り返りには、
自分とつながる視点。



小学校・3年・算数科
目的に応じて、表や棒グラフを用いて分かりやすく書いたり、読み取ったりする力を育成したい

適切なタイミング



まさにその時に感じた
学びの手応えを
自覚してほしい。

振り返りには、
適切なタイミング。



中学校・3年・保健体育科
自己に適した技を仲間とともに追究する力を伸ばしたい

熟考できる場づくり

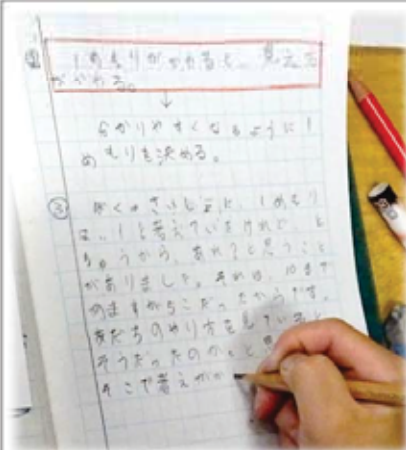


活発な議論に
包まれていた教室。
教師が問いかけると
シーンとなった。

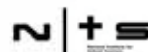
振り返りには、
熟考できる場。

中学校・3年・社会科
「君に問う ～松本サリン事件 冤罪・日本の罪い夏～」
（ホームページ未公開）

11



手応えを自覚する子供



ぼくは最初に1めもりは「1」
と考えていたけど、

途中から「あれ？」と思うことがあり
ました。それは10まで
のマスが5個だったからです。

友達のやり方を見ていると、
そうだったのかと思いました。

そこで考えが変わりました。

自分とつながる視点

小学校・3年・算数科
「見やすく整理して表そう」 12



「ふり返りの達人」
(教室掲示)



子供自身が
振り返る意味を考える

自分とつながる視点

小学校・3年・算数科
「見やすく整理して表そう」 13



今日の授業で苦手だった倒立前転が
できるようになりました。

足を揃えること、頭を引いてから
倒れるという順序を意識してやり
ました。

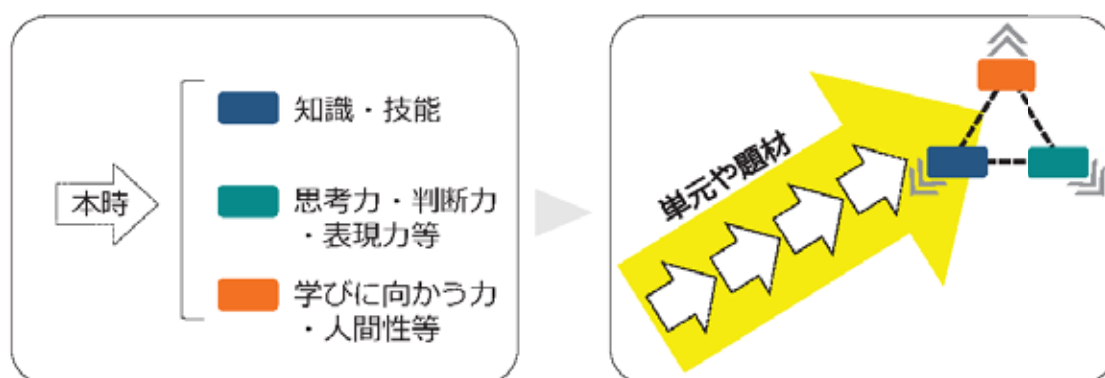
次はそれら以外のことも意識して、
完成度をもっと上げたいと思います。

適切なタイミング

中学校・3年・保健体育科
「マット運動」 14

3 本時レベルから 単元レベルの学びへ

3 ①本時レベルから 単元レベルの学びへ



- ・プロジェクト開始当初は本時の授業改善が重視されていたが、単元や題材のまとまりを見通す方向へと変わってきた。
- ・資質・能力の育成には、学んだことが活用・発揮されるように単元や題材をデザインする重要性が理解されてきたため。

3 ②活用・発揮を促すアプローチ（例）



知識と自分をつなぐ



視点が変わる。
見え方が変わる。
くっきりと見える。

新しい自分への
目覚め。

中学校・3年・社会科
「君に問う ～松本サリン事件 冤罪・日本の闇い壁～」
（ホームページ公開）

知識と知識をつなぐ



バラバラだった
知識と知識が
しっかりと結び付く。

習得・活用を繰り返す
単元デザイン。



中学校・1年・国語科
自分の文章構成や表現形式を広げる学びを実現したい

体験と言語をつなぐ



気にも留めなかった
もの、こと、ひとが
はっきりとする。

無自覚から自覚への
アプローチ。



小学校・6年・国語科
主張と理由付けや根拠の挙げ方に着目し、
物言立てて表現する力を育成したい

17

3つの投書を
読み比べてみよう！

書き方の特徴を
見つけて効果について
話し合おう

新聞の「投書」って
どんなもの？

説得力ある書き方の
秘けつって何？

読み手を納得させる
投書に挑戦！

どんなことが
書かれているの？

投書ってこういう
ものだったんだ！

比べると書き方に
違いがあるよ！

どんな違いが
あるの？

説得力ある書き方の
秘けつを発見！

私も新聞に
投書してみたい！

体 験

✋

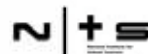
言 語

体験と言語をつなぐ

小学校・6年・国語科

「新聞に投書を送ろう パート1～説得力のある書き方の秘訣は何か～」 18

3つの投書を読み比べてみよう



勝利を求めてこそ
スポーツに意味が



17歳・男性

楽しんでするもの
それがスポーツ



25歳・女性

限界まで努力する
ことに価値がある



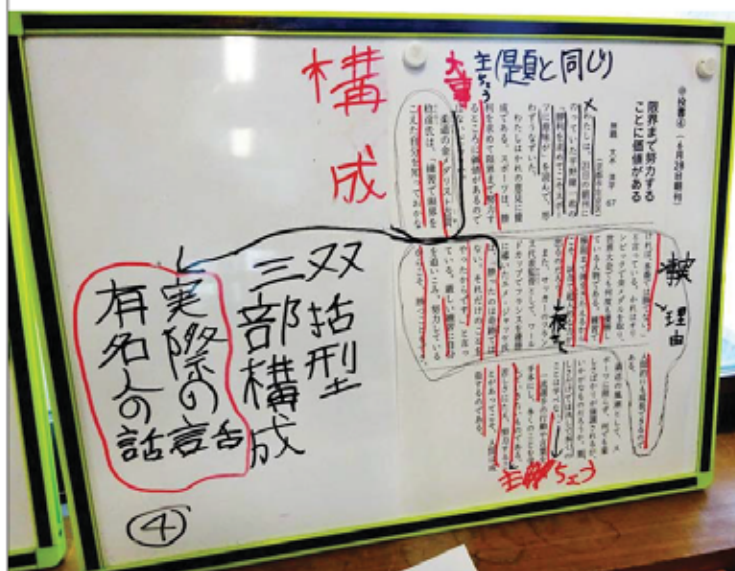
67歳・男性

体験と言語をつなぐ

小学校・6年・国語科

「新聞に投書を送ろう パート1～説得力のある書き方の秘訣は何か～」 19

書き方の特徴を見つけて効果について話し合おう



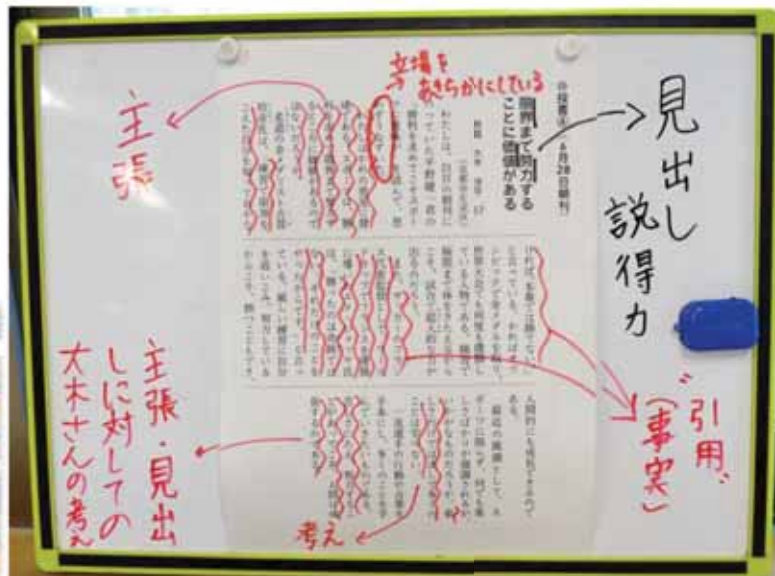
- 双括型
- 三部構成
- 引用の効果

体験と言語をつなぐ

小学校・6年・国語科

「新聞に投書を送ろう パート1～説得力のある書き方の秘訣は何か～」 20

- 見出しの効果
- 投書に対する
立場の明示



体験と言語をつなぐ

小学校・6年・国語科

「新聞に投書を送ろう パート1～説得力のある書き方の秘訣は何か～」 21

勉強は
いつか必ず役立つ

勉強はいつか必ず役立つ



佐々木 陸

僕は、学校の授業があまり好きではなかった。しかし、今は授業が退屈だとは感じていない。それは勉強の大切さについて考えるようになったからだ。

勉強が役に立つのは学校だけでなく、身の回りでも役立つ。特に自分の将来につながることを見つけたら、学校で学んだことと関連付けていけば将来の夢に向かって前進できるし、それによって授業に対する意欲も出て楽しくなると思う。僕自身、そうやって退屈な授業を楽しんでいるようにもなってきた。

学校の授業が楽しいかどうかは人それぞれだと思う。しかし、学んだことは必ずいつか役立つはずだ。ただ、つまらないと受け身の姿勢でいれば、学べることは少ない。いつか役立つと信じて頑張れば、きっと後で役立つ時が来る。損することはないはずだ。気持ちを切り替えて、頑張れば良いことがあるはずだ。

(秋田さきがけ新聞)

体験と言語をつなぐ

小学校・6年・国語科

「新聞に投書を送ろう パート1～説得力のある書き方の秘訣は何か～」 22

勉強が
自分の考え広げる



(秋田さきがけ新聞)



(解答は木曜日付本欄に)

勉強が自分の考え広げる

千田 みずき

「勉強なんて将来何の役に
も立たないのに...」。勉強し
なさい、など言われると、
多くの小学生がそう考えるの
と思うから。

一つ一つの授業の中で、自
分一人で考える時よりも、友
達と意見を交わし合って考え
た時の方がより良い意見を導
き出せると思います。
実際に、友達と意見交換し
てみると、自分一人だけでは
見つけられなかった考え方が
たくさん見つかる。また、一
つの意見をみんなで作る場合
と、さらによくなった意見を
生み出すことができる。
このように、「勉強は役に
立たない」と考えるのではな
く、前向きに「勉強とは自分の
考え方を広げるもの」と考
えればもっと学ぶことが楽し
くなるだろう。これからも勉
強について前向きに考えてい
きたい。

体験と言語をつなぐ

小学校・6年・国語科

「新聞に投書を送ろう パート1～説得力のある書き方の秘訣は何か～」 23



82歳・男性

素晴らしい
投書に関心

小学生の素晴らしい投書に感心

雪下 文衛 82歳(福島県郡山市)

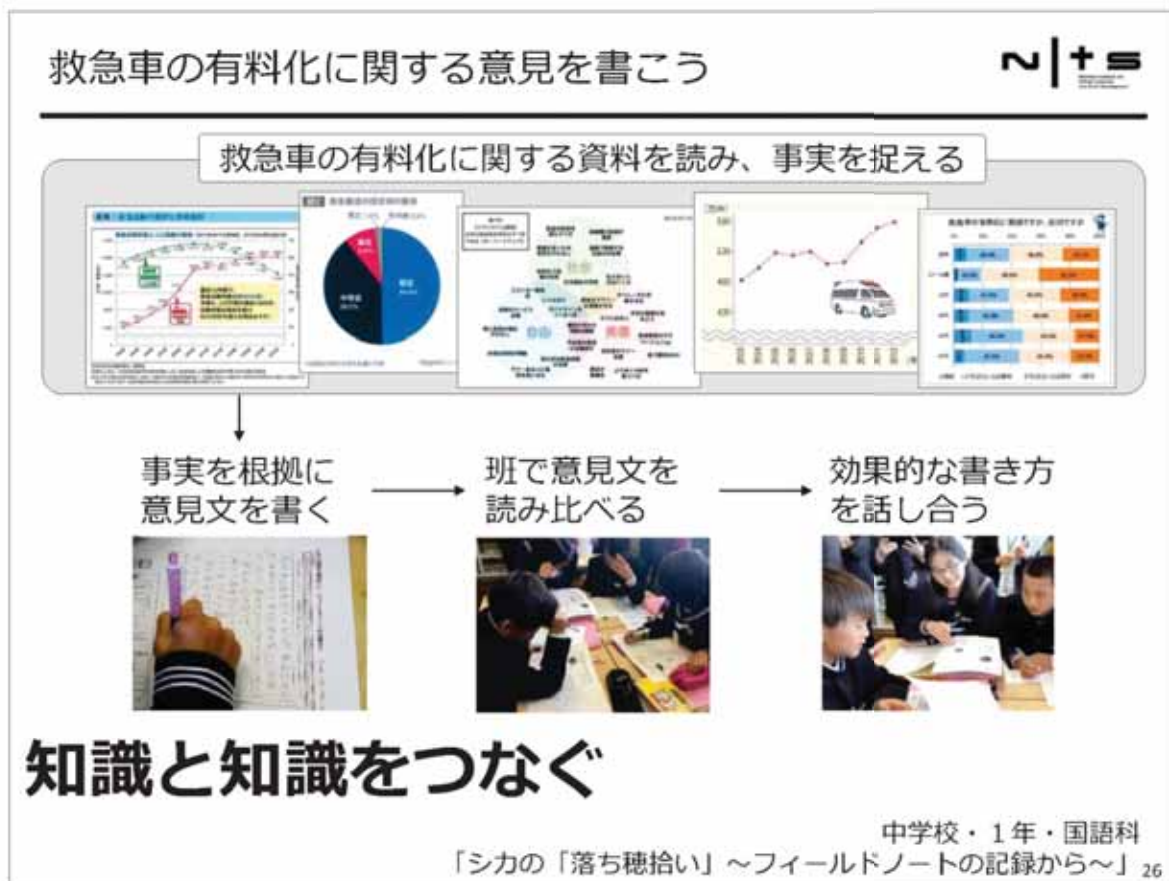
先日、妻と二人で湯沢市の
秋の富田温泉ホテルに宿泊
した。そこで地元紙である秋
田魁新報の「声の十字路」欄
で、テーマは「スポーツ」と
「勉強」。「スポーツ」も
人生の学び。「勉強はいつか
必ず役に立つ」「勉強が自分
の考えを広げる」という見出し
で、それぞれ家庭や学校、社
会で体得した考えを自分の言
語で素直に表現していた。
子どもたちは日常生活の中
で、スポーツや勉強の問題で
悩むこともあるだろう。そう
した問題を、人生という広い
視野で捉えており、小学生ど
ちは思えないほど立派な内容だ
と感心した。

(秋田さきがけ新聞)

体験と言語をつなぐ

小学校・6年・国語科

「新聞に投書を送ろう パート1～説得力のある書き方の秘訣は何か～」 24



【大単元】未来を創るのは、わたしたち！

現代社会の営みの中で、私たちはどうあるべきか

学習課題 憲法や法律、立法・行政のしくみと国民生活の
関連性に着目して考えよう

【中単元】最高法規は絶対的存在か
～社会的事象から読み解く日本国憲法～

人権って何だろう

学習課題 社会的事象（世の中の出来事）を
憲法条文の視点から見つめよう

【小単元】国民は基本的人権の享有を
妨げられない・・・、本当に？

Kさんを「犯人」としたのは誰か

学習課題 マスコミ・警察・国民の視点から
考えよう

知識と自分をつなぐ

中学校・3年・社会科
「君に問う ～松本サリン事件 冤罪・日本の黒い夏～」 27

【警察】

捜査権

【マスコミ】

表現の自由

経済活動の自由

【国民】

知る権利

【Kさん】

個人情報保護法

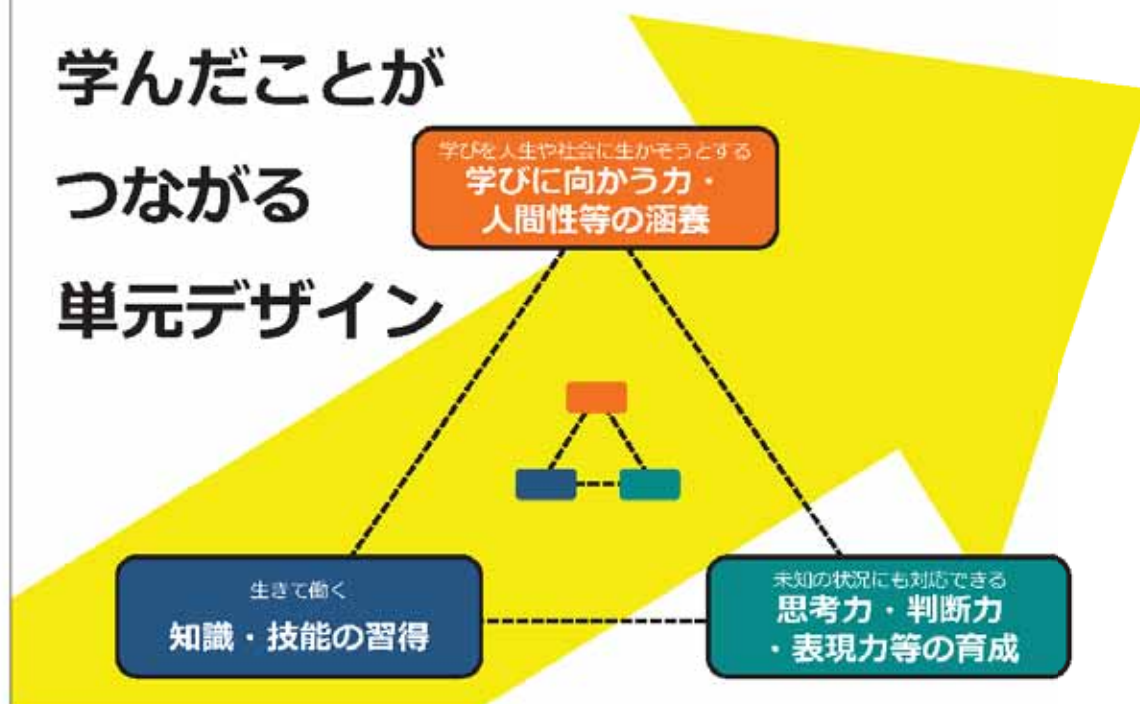
プライバシー権



知識と自分をつなぐ

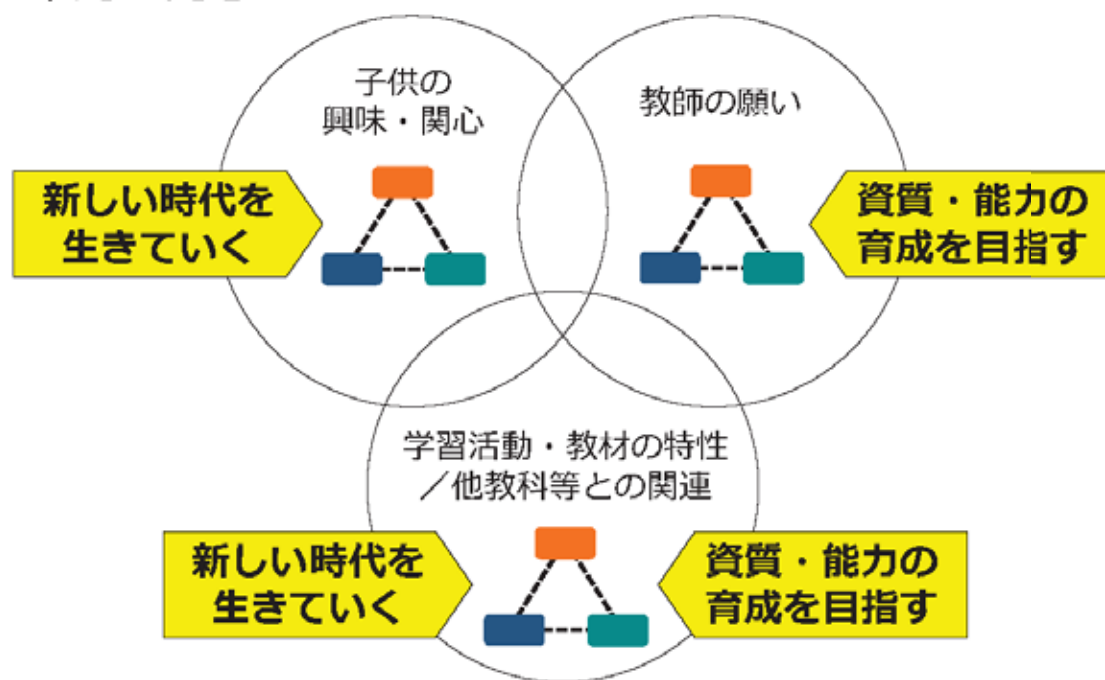
中学校・3年・社会科
「君に問う ～松本サリン事件 冤罪・日本の黒い夏～」 28

学んだことが つながる 単元デザイン



29

単元の発想 3つの視点から中心となる活動を思い描く



30

子供たちが語る「学び」



独立行政法人教職員支援機構

31

子供たちが語る「学び」



授業の主役は「自分」



今、大学では
話し合う授業を
推進しているらしい。

そんなことを意識して
授業をさせてもらった。



高等学校・3年・地理歴史科
歴史的な認識を深めて、幅広い視野を育成したい

「濃い」授業



知識をどんどん
つながられていくと
すごい頭に入って
理解も深まる。

だから、
授業がいつも濃い。

高等学校・1年・生物基礎
「生物の特徴」
(ホームページ未公開)

答えのない「問い」



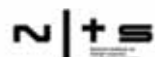
友達と
影響を与え合って
答えにたどり着く。

でも、答えてものが
あるんじゃない。

中学校・3年・社会科
「君に問う 〜松本サリン事件 冤罪・日本の黒い夏〜」
(ホームページ未公開)

32

資質・能力の育成を目指す 主体的・対話的で深い学びのイメージ図



33

主体的な学びの視点からの授業改善イメージ



学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身につけた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

〔「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（附則）平成26年12月21日 中央教育審議会」より〕 34

対話的な学びの視点からの授業改善



子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。身に付けた知識や技能を支えさせるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

〔「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（論点）」平成28年12月21日 中央教育審議会より〕 35

深い学びの視点からの授業改善



習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた学習・能力の三つの柱を活用・発展しながら物事を捉え思考することを通じて、学習・能力がさらに伸ばされたり、新たな学習・能力が育まれていくことが重要である。教育はこれの中で、教える側面と子供たちに思考・判断・表現させる側面を効果的に設計し関連させながら推進していくことが求められる。

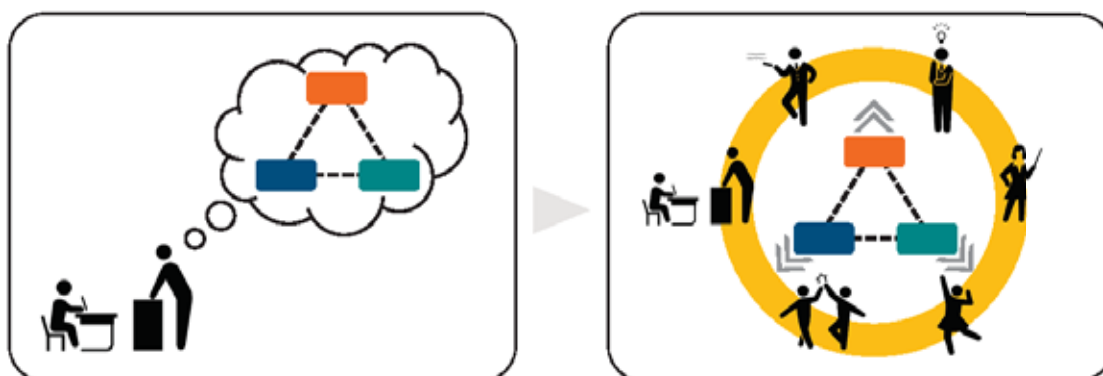
〔「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（論点）」平成28年12月21日 中央教育審議会より〕 36

子供の視点に立ち、学びを問いつける教師

- 1 体のアクティブ化から 頭もアクティブ化へ
- 2 形だけの振り返りから 学んだ手応えの自覚へ
- 3 本時レベルから 単元レベルの学びへ
- 4 ひとりの授業改善から みんなの授業改善へ

37

4 ひとりの授業改善から みんなの授業改善へ



- ・プロジェクト開始当初は特定の教員の授業公開が多かったが、学校全体で取り組む方向へ変わってきた。
- ・資質・能力の育成を目指す授業改善に価値を見だし、「学校として」授業改善に取り組んでいるため。

38

鹿児島県実践フィールド校
主体的・対話的で深い学びの研究

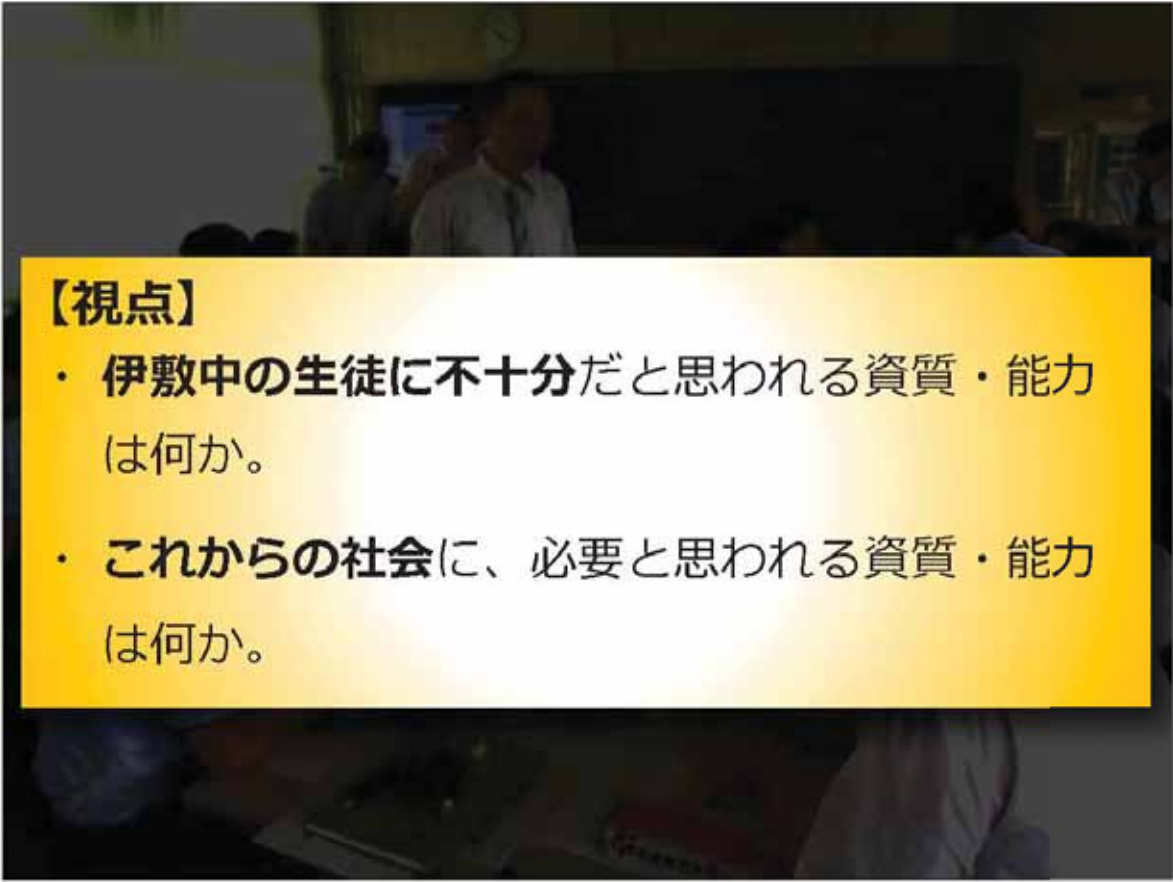
次世代型教育推進センター
研修協力員 宮迫 隆浩

鹿児島市立伊敷中学校



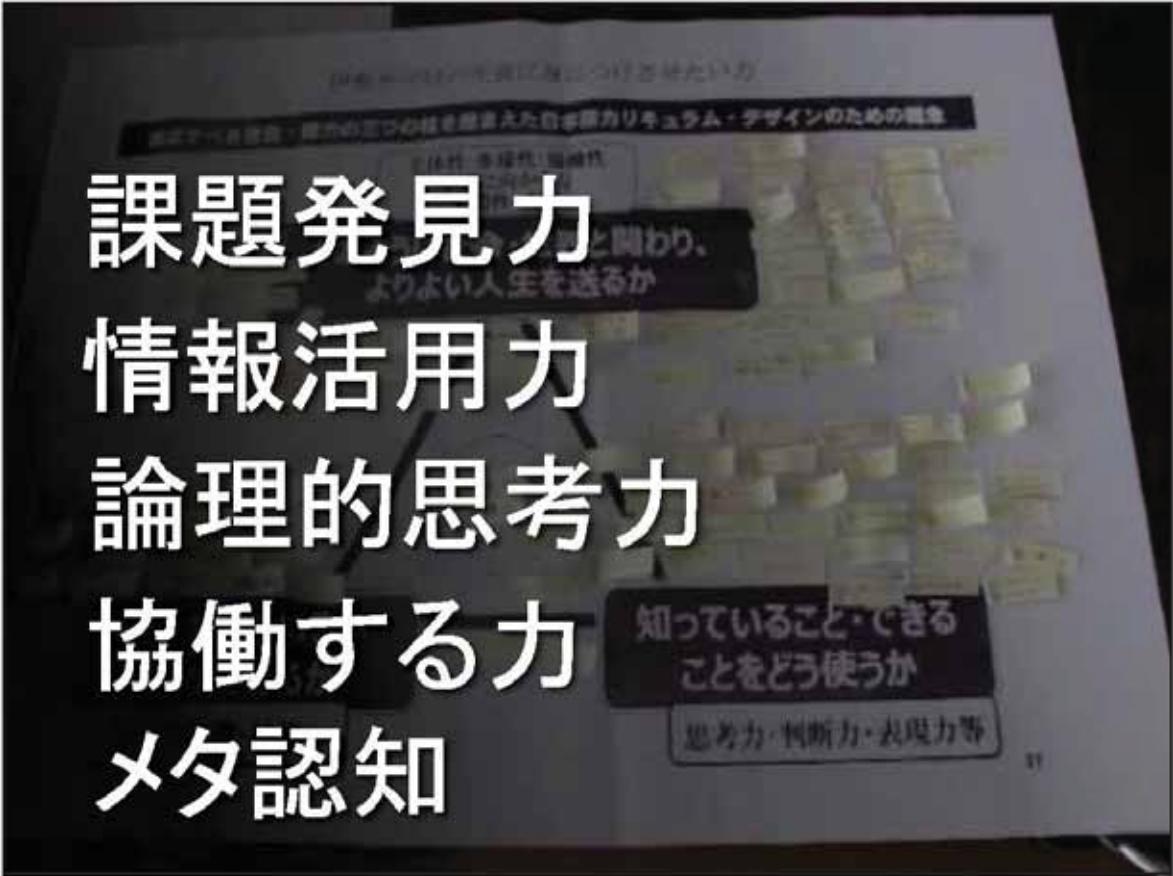
学級数：21クラス

生徒数：約700名



【視点】

- ・ 伊敷中の生徒に不十分だと思われる資質・能力は何か。
- ・ これからの社会に、必要と思われる資質・能力は何か。



課題発見力
情報活用力
論理的思考力
協働する力
メタ認知

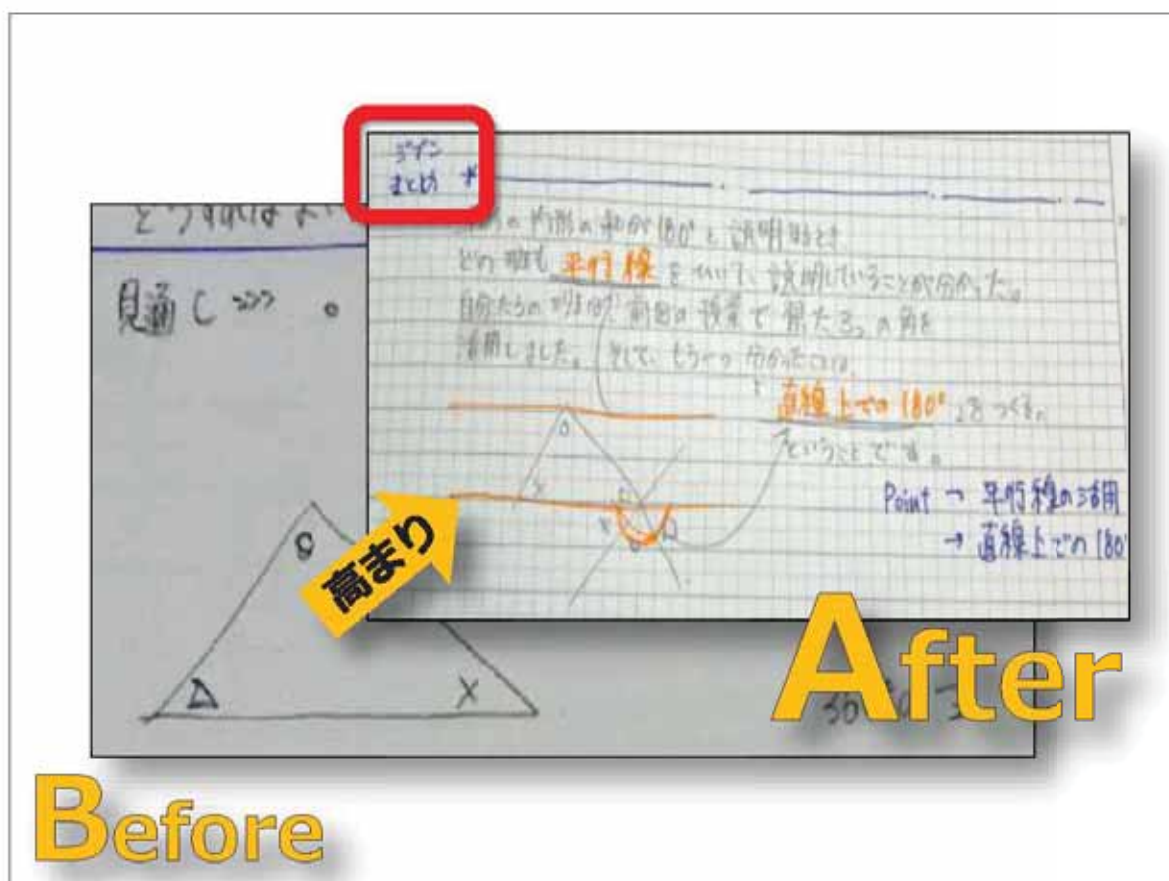
知っていること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

主体的な学び

～学びの高まりの自覚化～

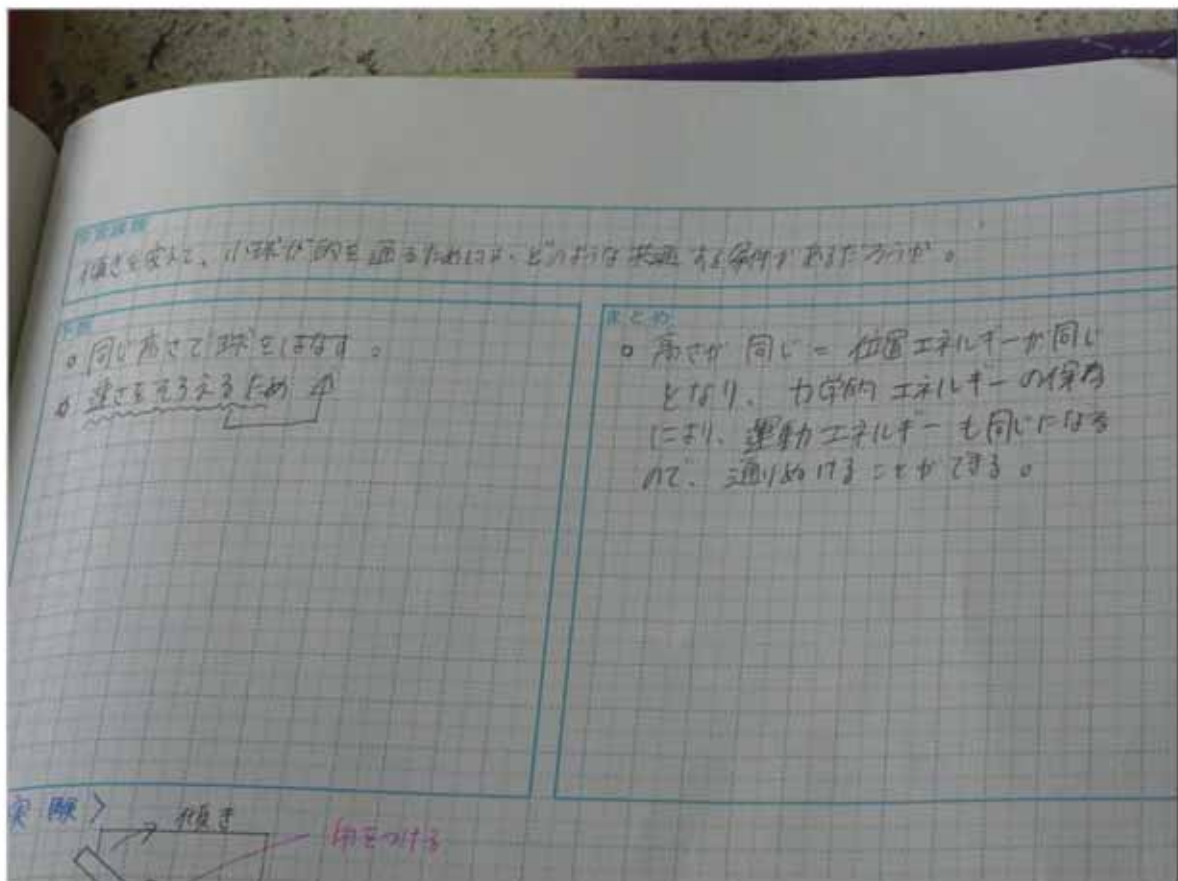


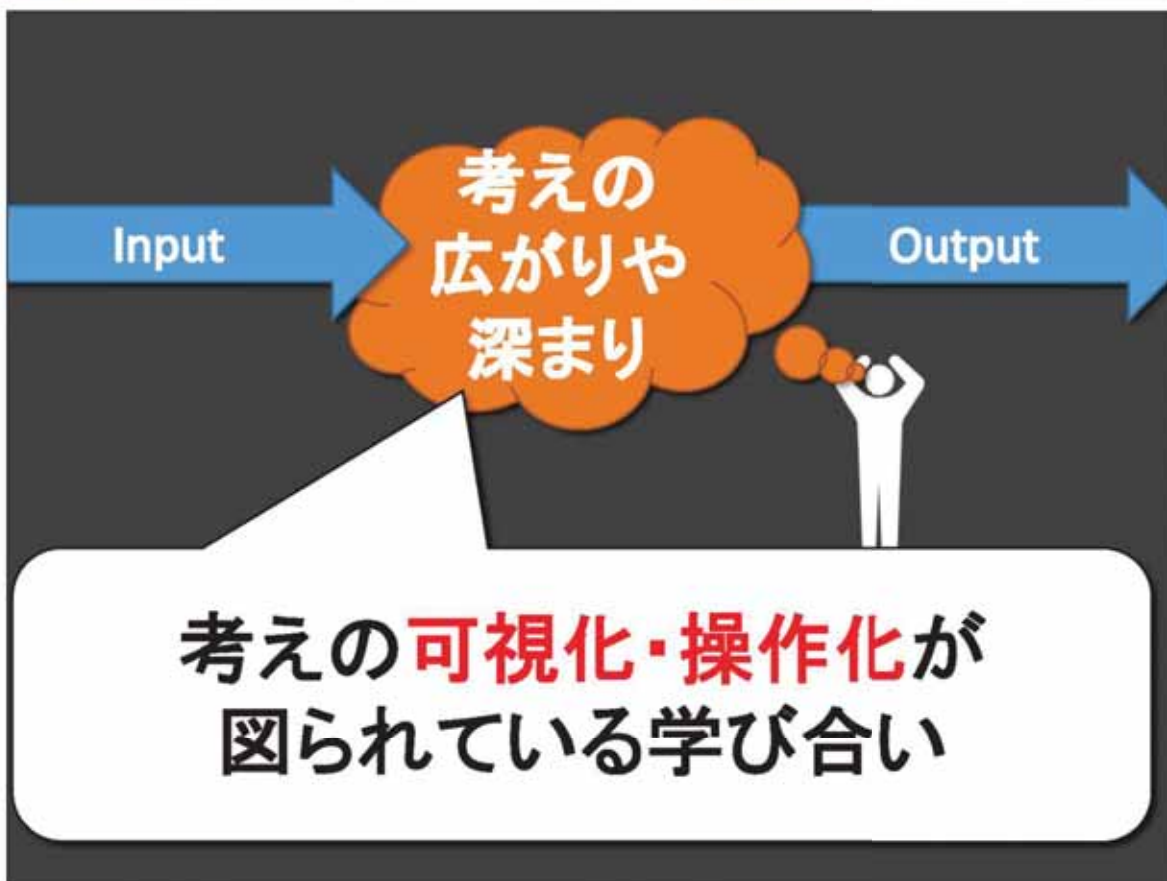
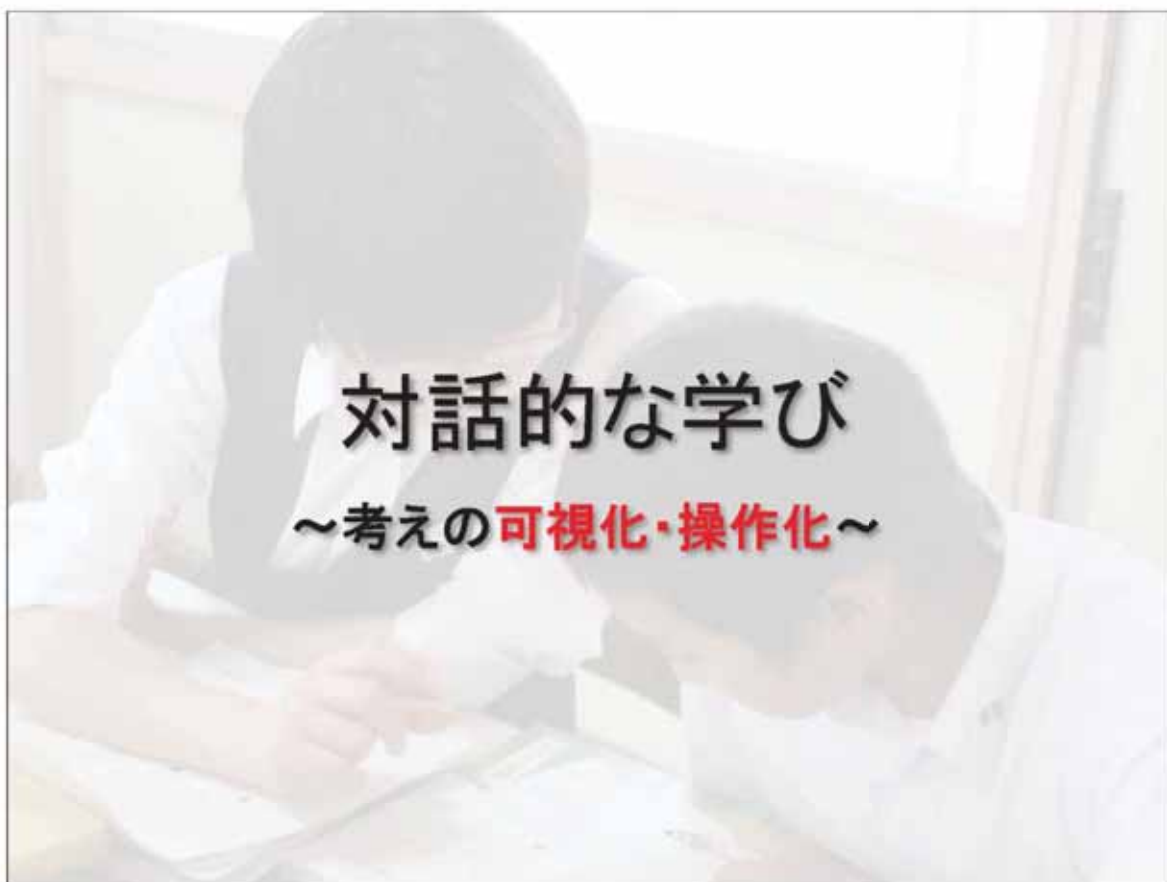


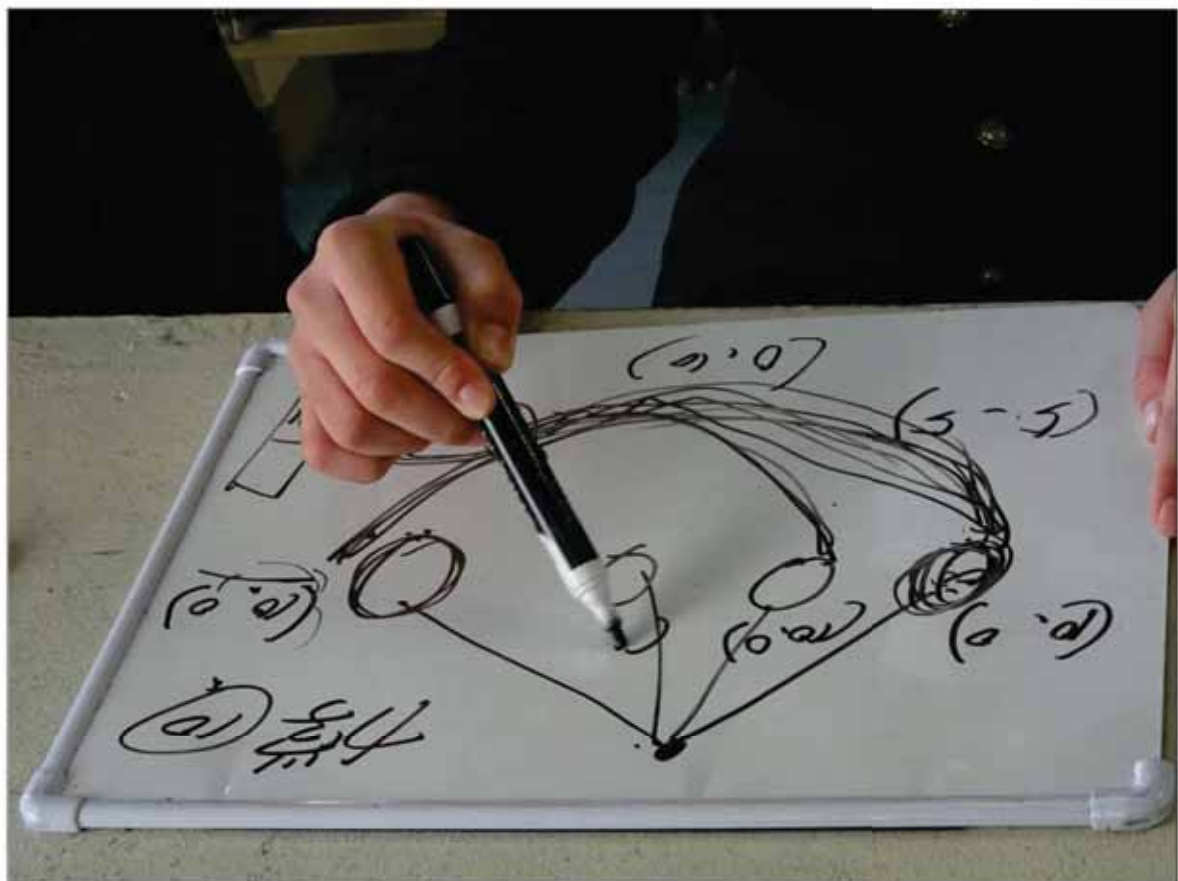
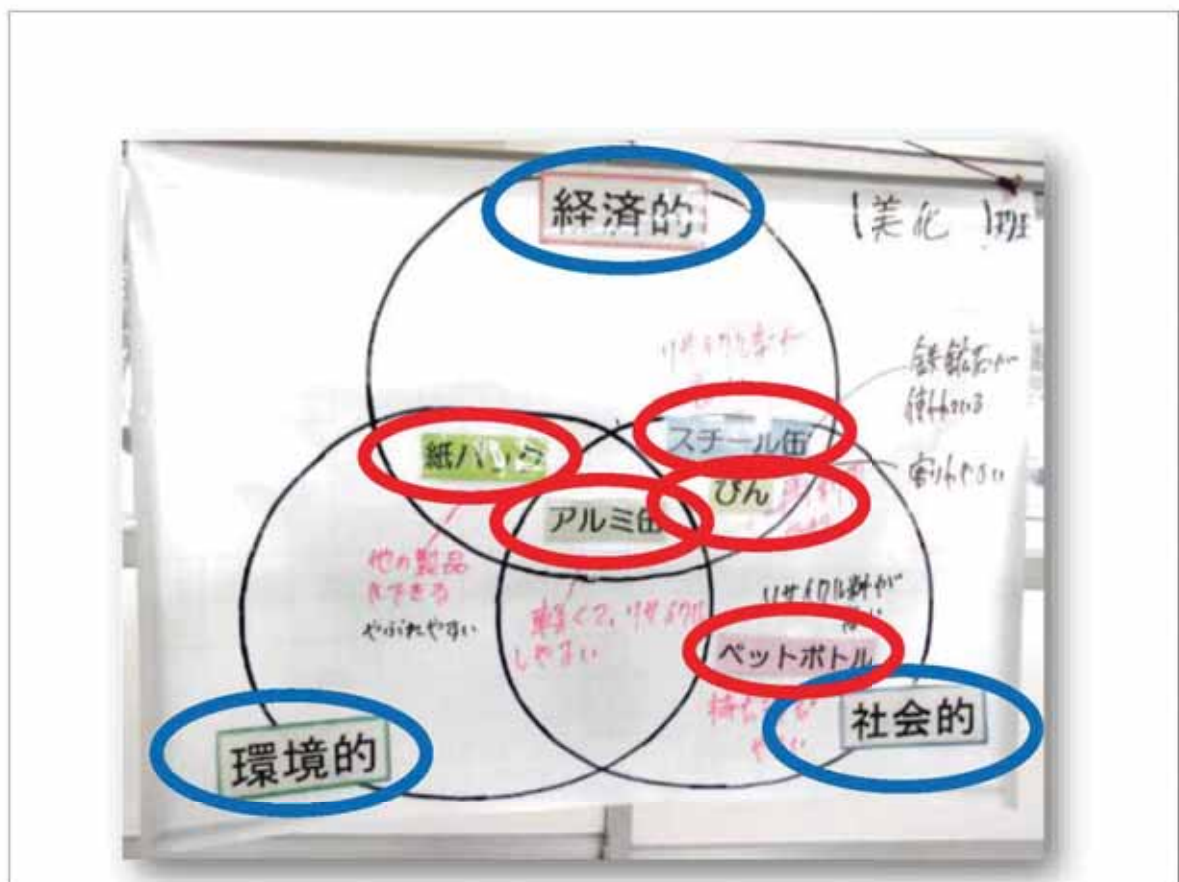
【振り返り】

実験的な方法ではなく、数学的な方法で考えることで、
 かなりよく、正確に考えることができた。
 自分の考えだけでなく、友達の考えもきくと、新しい方法で考えることができた。

高まり... 自覚









①学びのゴールの具体化

作曲者は音楽に母国を愛する気持ちや圧政への怒りを込め、音楽によって母国の平和を訴えようとした。

②追究過程の予想

気づき



納得



意志

[気づき]

P 1 : フルートの優しい音色から細い川をイメージすることができた。

P 2 : クラリネットの二重奏から川の拓り香

[納得]

P 1 : フルートの音色から小さい川の流れていく様子が想像でき、母国の自然の豊かさを表している。

P 2 : 人々の平和な生活を表現することに

8 自己評価をする。

[意志]

P 1 : 音楽鑑賞の時に標題と楽器の音色の関
わりに気を付けて聴いてみよう。

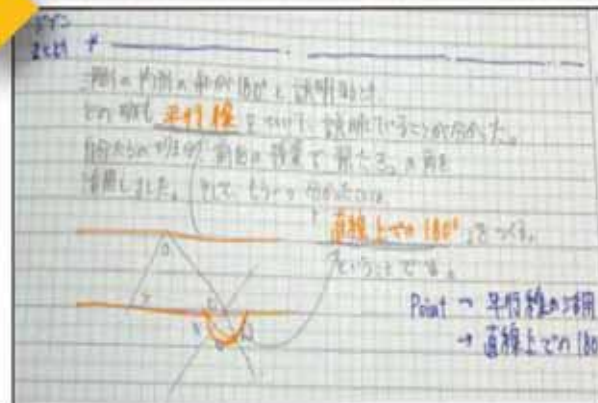
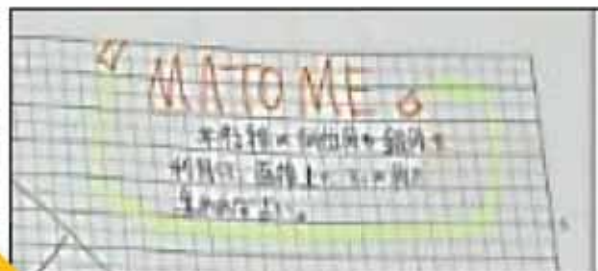
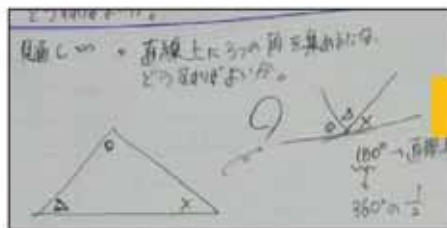
P 2 : よく楽譜を見てアーティキュレーションや音楽記号に気を付けて鑑賞しよう。

P 3 : 作曲者の思いや音楽が生まれた背景について考えながら鑑賞しよう。

生徒の学びをどのように見取るか？

(例) 発言・記述・動き

記述見取る

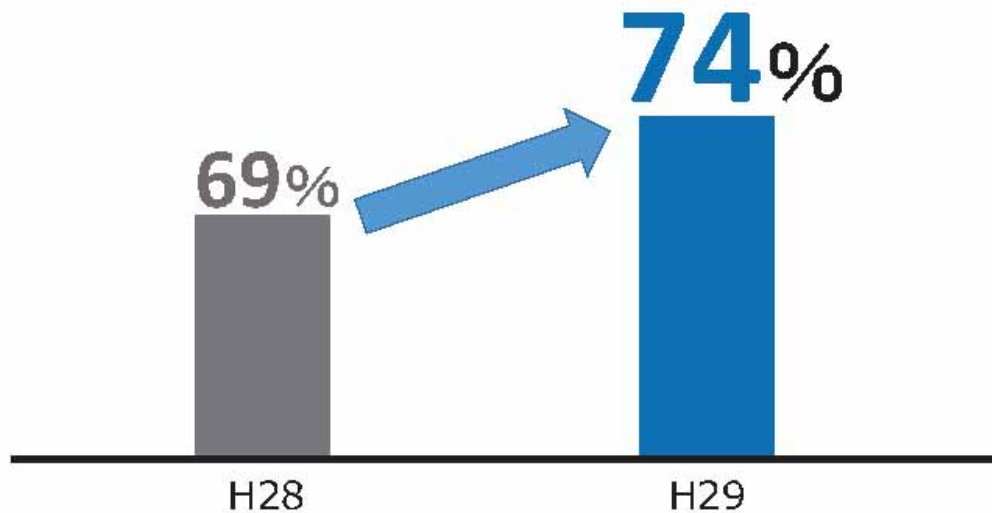


動きから見取る



成果

生徒へのアンケート
ひとつの物事をいろいろな角度や視点から考えることができますか



課題

	①課題発見力	②情報活用力	③論理的思考力	④協働する力
レベル 4	日常生活の中から自ら課題を発見していくことができる。	情報を比較しつつ、それらの真偽を見極め、適切に活用することができる。	多面的・多角的な視点を踏まえた上で、論理的に自分の考えを説明することができる。	集団として解や納得解をすることができる。
レベル 3	課題の意義を自らの生活と結び付けて捉えることができる。	適切な方法で復習の情報を収集することができる。	適切なことばや方法で、自らの考えとその根拠を説明することができる。	お互いの意見を整理しながら考えの質を高めることができる。



深い学びを実現している学校の共通点

- ◇子供の姿で授業を語る
- ◇ゴールイメージを具体的に描く
- ◇職員集団で学びをつくる
- ◇単元・題材で授業をつくる

実践フィールド校の取組

我孫子市立我孫子第一小学校
単元づくり（総合表現活動）



我孫子市立我孫子中学校
教科の壁をこえた校内研修



千葉県立我孫子東高等学校
学びへの動機付け



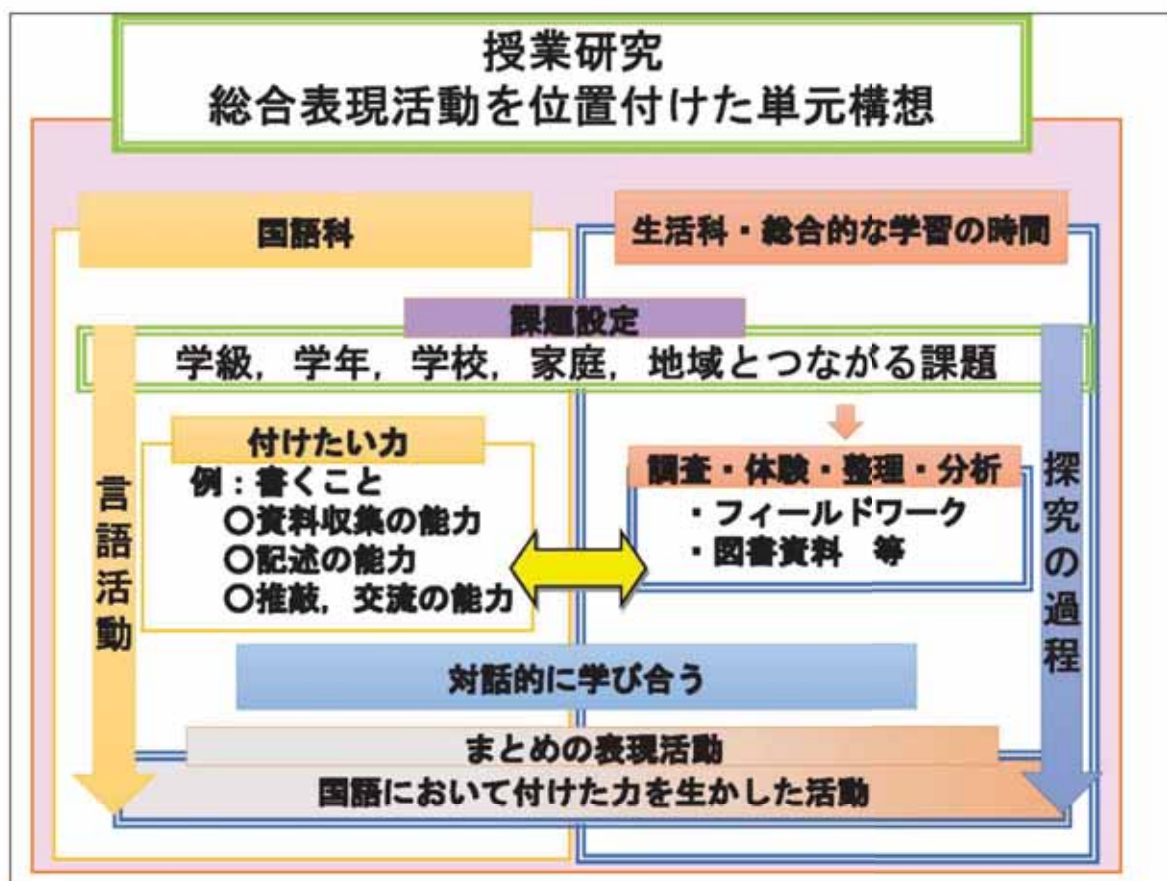
N | + S 独立行政法人教職員支援機構

我孫子市立我孫子第一小学校の取組

◇単元・題材で授業をつくる



N | + S 独立行政法人教職員支援機構



我孫子市立我孫子中学校の取組

◇職員集団で学びをつくる



「教科の壁」をこえた
校内研修の充実
～我孫子ROUND TABLE研究会～

学校として育成した資質・能力

教科の壁

生徒の学ぶ姿に注目

教科の壁をこえ協議することが可能

教科で作成する「授業の見どころ」

本時の授業で「学びが深まった」生徒の具体像
例) 「知識を関連づけて論理的に体系づけることができる」

社会科で捉える、生徒が「学びを深める」具体像の1つとしては、「知識を関連づけて論理的に体系づけることができる」が挙げられる。これは、単に知識を暗記するだけでなく、知識を関連づけて論理的に体系づけることができるという点に注目している。

○「学びを深める」ためにどのような手立てをとるのか？
例) 発問 対話的な手立て（グループ学習）

○指導者が、「さらに深める」場面において、「元寇がなかったら、鎌倉幕府は滅び

◎どの場面で、「学びの深まり」を見取るのか？
例) 「ホワイトボードを用いて、論理的な説明がなされているか」

◎したがって、「学びの深まり」は「ホワイトボードを用いて、論理的に説明がなされているか」が見取りのポイントとなる。

◇ゴールイメージを具体的に描く

千葉県立我孫子東高等学校の取組

◇子供の姿で授業を語る



N | + S 独立行政法人教職員支援機構

千葉県立我孫子東高等学校の取組

◇職員集団で学びをつくる

全教員がそれぞれの方法で
生徒のモチベーションを上げる手立てを！



芸術科：彫刻
目隠しをして、触感により、
塑像を作成する



外国語科：“Communication in
Soccer”
サッカー選手の言葉を引用して、
コミュニケーションの重要性を理解する

N | + S 独立行政法人教職員支援機構

教員だけでなく生徒とも目標を共有

自分を表現する力

相手を理解する力

みんなで継続する力

NITS 独立行政法人教職員支援機構

次世代型教育推進センター ホームページ

新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト(次世代型教育推進センター)

[ホーム](#) [プロジェクト概要](#) [授業実践事例](#) [研修プラン等](#) [セミナー](#) [都道府県等の特設サイト](#) [アクセス](#)



プロジェクト概要
実践フォーラムや
アドバイザリーボード等



**アクティブ・ラーニング
授業実践事例**



**アクティブ・ラーニング
研修プラン等**
二つのモデルの関連性 等



セミナー
～アクティブ・ラーニング
について考える～



**アクティブ・ラーニング
都道府県等の
特設サイト**



次世代型教育推進センター

検索

◇ホームページにおける成果公表

<http://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/index.html>

○「授業実践事例」の公表

*主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる「授業実践事例」を紹介。

授業実践事例

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業実践事例を紹介します。

この実践事例について

- 本校の授業では主体的・対話的で深い学びの視点からの授業実践事例を公表しています。
- 実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。
- 実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

◇ホームページにおける成果公表

<http://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/index.html>

○「研修実践事例」の公表

*主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むための「研修実践事例」を紹介

(18事例：平成29年10月時点)

研修実践事例

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むための「研修実践事例」を紹介。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

実践事例の公表は、本校の授業改善の成果を公表するためです。

研修プランを活用する際の資料

● プランシート

授業プランシート
授業事例を通して資質・能力育成の手掛かりをつかむ

● 目的
授業プランシートを活用して、授業実践の振り返りや、授業改善の検討を行う。

● 対象
教員

● 形式
ワークシート

● 内容
授業プランシートを活用して、授業実践の振り返りや、授業改善の検討を行う。

● スライド

目的

新しい時代に求められる
資質・能力を育成するために、
授業改善の手がかりをつかむこと
を目指す

解説動画

授業プランシート
資質・能力に視点を当て単元計画
を検討する

(注) 教員指導者 次世代型教育推進センター
研修協力員 橋本 亮

N | + S
新国立大学 新教育研究センター

● ワークシート

授業プランシート

1. 授業プランシートを活用して、授業実践の振り返りや、授業改善の検討を行う。

2. 授業プランシートを活用して、授業実践の振り返りや、授業改善の検討を行う。

3. 授業プランシートを活用して、授業実践の振り返りや、授業改善の検討を行う。

4. 授業プランシートを活用して、授業実践の振り返りや、授業改善の検討を行う。

63

研修プログラムモデル



研修プログラム① 学校として育成したい「資質・能力」を共有する際の突破口が欲しい時に…

全体で共有する
B12：実践を紹介し合い育みたい資質・能力を全員で考える

単元・題材を構想、計画する
B6：資質・能力に視点を当て単元構想を検討する
授業実践事例（次世代型教育推進センターHP）を参考に、教材研究を進める

実践を共有する
A6：授業事例を通して資質・能力育成の手掛かりをつかむ

授業作りでの工夫を考える
同僚からの意見や授業アンケート等から再構想する
Are You Ready シートを活用して取組を具体化する

実践を積み重ねる
A5：活用・発展されている力を促し学びの過程を分析する

67

教員養成課程における アクティブ・ラーニングと 学修成果の可視化

玉川大学教育学部教育学科

田畑 忍

tabata@edu.tamagawa.ac.jp

内容

- ・ アクティブ・ラーニング（AL）について
- ・ 担当している授業（教育の方法と技術）でのAL
- ・ ALでの工夫
 1. シンク・ペア・シェア（振り返り）
 2. 反転授業（グループWの時間確保）
 3. 相互評価（評価基準と振り返り）

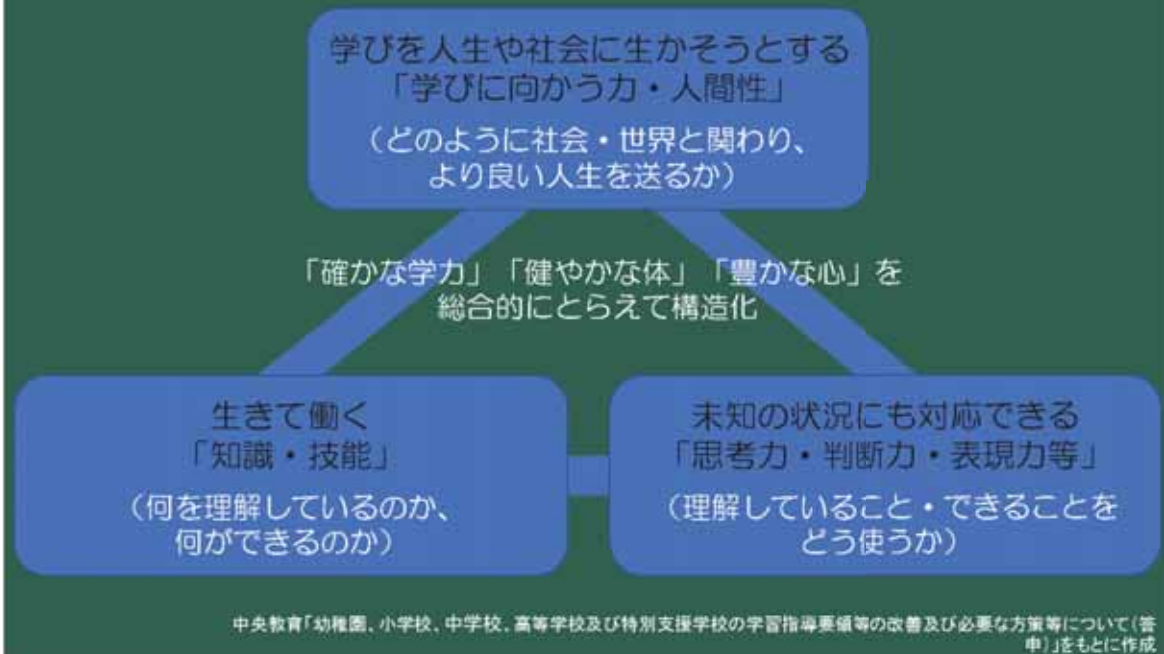
先の見えない社会

- 人工知能などの研究を行っているマイケル・A・オズボーン氏は、「今後10～20年でアメリカの雇用者数の47%の仕事がコンピュータ化されるリスクが高い」と発表した。
- キャシー・デビッドソン氏は、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就く」と予想した。
- レイ・カーツワイル氏は、「2045年に技術的特異点（テクノロジカル・シンギュラリティ）と呼ばれる現象が起こる」と予測した。

先が見えないからこそ

- グローバル化や急速な情報化など社会の変化が激しく、将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子供たち一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していくことが重要である。
- 子供たちには、何が重要かを主体的に考え、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑むとともに、新たな問題の発見・解決に取り組んでいくことが求められる。

育成すべき資質・能力の三つの柱



主体的・対話的で深い学び

・ 主体的な学び

子どもが学びに興味や関心を持って向かい、次の学びにつなげることです。それには、子どもの興味・関心が湧くように題材や問いかけを吟味したり、子どもに学習の見通しを持たせたり、振り返りをして身につけたことを自覚させたりすることが求められます。

・ 対話的な学び

他者の考えと交流しながら自身の考えを広げ、深める学びです。「協働的」としなかったのは、他者の考えとの交流には、身近な人々との直接的な対話を通じた考えの交流だけでなく、読書を通じた著者や歴史上の人物の考えとの交流なども含まれるからです。

・ 深い学び

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学びです。知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする過程で、各教科等の「見方・考え方」を働かせるような学びを指します。

ベネッセ教育研究所「VIEW21 教育委員会版 2017 Vol.1」, 9ページ「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」
http://berd.benesse.jp/up_images/magazine/VIEW21_kyo_2017_01_all.pdf、2018年2月26日閲覧

ALの技法の例

ディスカッションを導く技法	シンク・ペア・シェア、ソクラテス問答法、バズ学習、ディベート、ブレインストーミング、ワールドカフェ、ラウンドロビン、親和図法、他
書かせて思考を促す技法	ミニッツペーパー、大福帳、キーワード・レポート、BRD（当日レポート方式）、ラウンドテーブル、ピア・エディティング、他
学生に相互に学ばせる技法	ピア・インストラクション、ペア・リーディング、ラーニングセル、グループテスト、アナリティック・チーム、ジグソー法、学生授業、他
問題に取り組ませる技法	クイズ形式授業、復習テスト、再チャレンジ付小テスト、間違い探し、虫食い問題
経験から学ばせる技法	ロールプレイ、サービスマーケティング
事例から学ばせる技法	映像活用学習、ケースメソッド、PBL（問題基盤型学習）、TBL（チーム基盤型学習）
授業に研究を取り入れる技法	報道番組作成、ルポルタージュ作成、アンケート調査、フィールドワーク、PBL、ポスターセッション
授業時間外の学習を促す技法	授業後レポート、授業前レポート、スクラップ作成、反転授業

中井俊樹『シリーズ大学の教授法3 アクティブラーニング』（玉川大学出版部、2015年）

大学におけるAL

- 学部や学科の授業の中で、科目の特性に応じたALが行われている。
- しかしながら、例えばグループ学習を苦手だと感じている学生もおり、「グループ学習の役割」「アイデアを出す方法」「発表の方法」等を理解していない場合も多い。
- 教員養成課程で学ぶ学生は将来、ALの技法を用いて児童生徒を指導することが求められる。
- 授業を通して彼ら自身をアクティブ・ラーナーにする必要がある。

教育の方法と技術/授業内容

授業回	講義内容	主な活動
第1回	オリエンテーション	シンク・ペア・シェア (TPS)
第2回	グループによる学び(1)	反転授業、ペアW・グループW (ファシリテーション、「月からの脱出」)
第3回	インストラクショナルデザイン	TPS、グループW「Monster Exchange Project」
第4回	グループによる学び(2)	TPS、グループW (ホワイトボードミーティング、他)
第5回	グループによる学び(3)	グループW (ブレインストーミング、親和図法、ポスターセッション)
第6回	個人差への対応	TPS、グループW「権利の熱気球」
第7回	コミュニケーション能力の育成(1)	グループW (ロールプレイ)
第8回	コミュニケーション能力の育成(2)	グループW (ロールプレイ)、相互評価
第9回	指導における情報提示(1)	グループW (KP法)、グループ内相互評価
第10回	指導における情報提示(2)	グループW (KP法)、相互評価
第11回	ICTを活用した授業(1)	TPS、グループW (ジグソー法)
第12回	ICTを活用した授業(2)	TPS、グループW (映像活用「NHK for school」)
第13回	評価	TPS
第14回	学習指導案の作成方法と検討	TPS、グループW「学習指導案の検討」
第15回	学習指導案の作成	

教育の方法と技術/授業内容

授業回	講義内容	主な活動
第1回	オリエンテーション	シンク・ペア・シェア (TPS)
第2回	グループによる学び(1)	反転授業、ペアW・グループW (ファシリテーション、「月からの脱出」)
第3回	3回目以降・毎回 学生による導入 (前時の復習・本時の内容 アイズブレイク)	TPS、グループW「Monster Exchange Project」
第4回		TPS、グループW (ホワイトボードミーティング、他)
第5回		グループW (ブレインストーミング、親和図法、ポスターセッション)
第6回	個人差への対応	TPS、グループW「権利の熱気球」
第7回	コミュニケーション能力の育成(1)	グループW (ロールプレイ)
第8回	コミュニケーション能力の育成(2)	グループW (ロールプレイ)、相互評価
第9回	指導における情報提示(1)	グループW (KP法)、グループ内相互評価
第10回	指導における情報提示(2)	グループW (KP法)、相互評価
第11回	ICTを活用した授業(1)	TPS、グループW (ジグソー法)
第12回	ICTを活用した授業(2)	TPS、グループW (映像活用「NHK for school」)
第13回	評価	TPS
第14回	学習指導案の作成方法と検討	TPS、グループW「学習指導案の検討」
第15回	学習指導案の作成	

[illegible]

電、磁波をきき取る装置はなか／＼と作られること
 がとてゐるはず。
 さてこの相対性理論がどうして出来たかといふ
 ところ、スティーヴン・ホーキングが書いていす
 ところを聞いていふことが、アインシュタイン
 シンクの復讐の一つです。
 本方の「科学事件簿」にする
 は、いろいろのことがありますが、たゞ
 はた科学事件簿にしたい。登場人物、出来事、
 設定の事柄とまあ面白い。物理史に収められ
 たいものではないか。面白い。面白い。面白い。
 といふことは、どうも可成り確信を感ずる。といふこと

[illegible][illegible][illegible]

まとめて、分かち合う
(決定)

シンク・ペア・シェア

- **シンク・ペア・シェア**
 - 議論を段階的に踏ませる方法。
 - まずは1人で考え、次にペアで意見を言い合い（共有し）、最後に全体で共有する。
- **シンク・ペア・スクエア・シェア**
 - シンク・ペア・シェアの応用。
 - ペアの後、4人（グループ）で意見を言い合う。



反転授業

- 説明中心の講義などを動画化し、事前学習として学習者に視聴を促すことを前提に、対面授業では受講者がより主体的に学ぶ演習やプロジェクト型学習を行う授業形態全般を指す。

授業の流れ	学生の活動	伝統的な授業デザイン	反転授業の授業デザイン
事前学習	活動主体	任意	学生
	学習活動		動画の視聴（繰り返し視聴が可能）
	活動の単位		個人
授 業	主な活動主体	教師	学生
	学習活動	講義を聞く	アクティブ・ラーニング
	学習活動の単位	個人	仲間
復 習	活動主体	学生	任意
	学習活動	演習	
	活動の単位	個人	

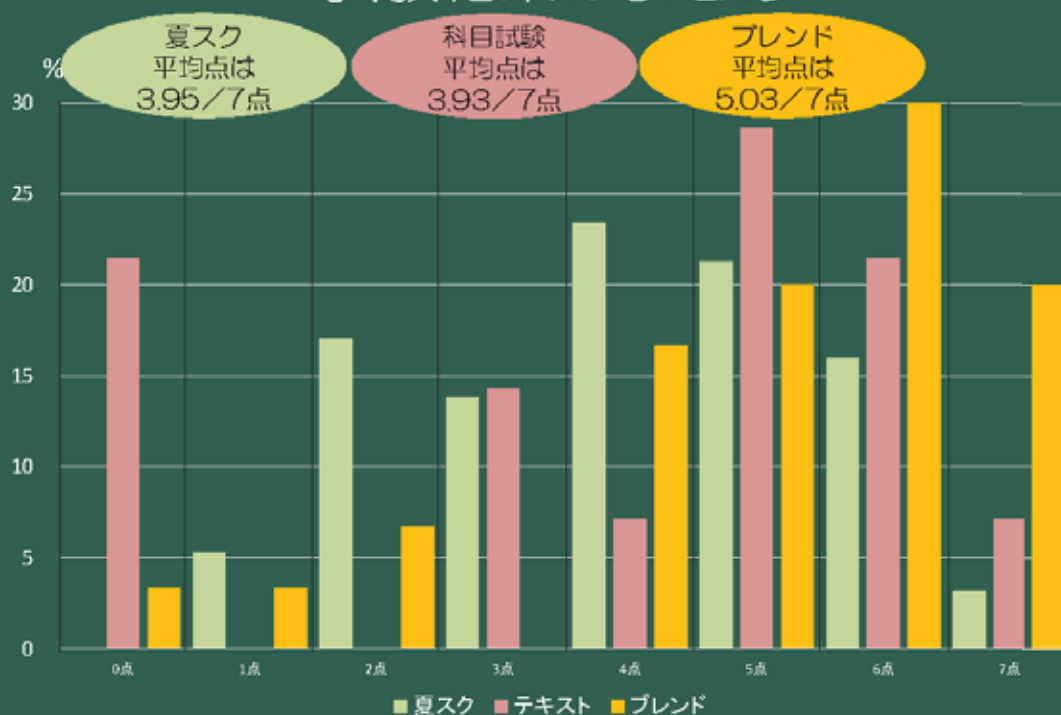
森朋子「反転授の可能性—アクティブ・ラーニングの視点から」(『大学時報』No.376, 2017年, 48-53ページ
<http://daigakujiho.shidairen.or.jp/download/?issue=376§ion=2>, 2018年2月26日閲覧

反転授業の例 ブレンディッドスクーリング

- 通信教育課程の授業
- 科目：「教育の方法と技術（幼・小）」
- 実施：平成29年6月1日～7月9日
 - メディア授業… 6月1日～6月30日
 - グループ学習… 7月1日～7月7日
 - スクーリング… 7月8日～7月9日



試験結果のまとめ



KP法



- 川嶋直氏が考案
- 「紙芝居プレゼンテーション」の略
- (中野民夫氏の「紙ポイント」と同様)
- (川北秀人氏らも同様のことをしてる)
- 最近はALで利用されることも多い。
- B5～A4サイズの手紙を利用する。
- 手紙に、だいたい10～15文字を3行程度で要点を示す。
- 1つの説明で10～15枚程度の手紙を使う。
- 「どこに」「どの順で」貼るのかも考える。
- 「どのように話すのか(台本)」も考える。

KP法を題材とした授業の流れ

- KP法の作成方法・活用場面などを指導
- 課題に沿ったKPを個人で作成
- KPをグループ内で発表・相互評価
- グループの代表者の決定
- 代表者のKPを全員で修正改善(発表KPの作成)
- 代表者の発表・相互評価
- 相互評価表などをもとに振り返り
- レポートの提出

教育の方法と技術：() さんの「KP法」の発表を見て、聞いて～

氏名 ()

1. 重要な点(伝えたいこと)は伝わったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

2. 文中の表現(内容の正確性も含む)は適切であったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

3. 説明の流れ(展開)はわかりやすかったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

4. 文字の大きさや色使いなどは適切であったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

5. イラストなどを効果的に利用できていたか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

6. 声は聞き取りやすかったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

7. 話す速さは適切だったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

8. 聞の取り方は適切だったか(聴衆の反応を見ながら話していたか)？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

9. メリハリ(抑揚)のある話し方であったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

10. 体の向きやボディランゲージは適切であったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

11. 「Total」で発表内容はわかりやすかったか？伝わったか？

はい 5 4 3 2 1 いいえ

この項目で一言あれば～ ()

12. 自由記述(感想・指摘などをお願いします。<100>)

相互評価表の評価
項目として、作成する
KPと発表時の
ポイントを示している

「授業を通して修得できる力」 のコモン・ルーブリック

「授業を通して修得できる力」のコモン・ルーブリック(Competency Goals)					
	評価基準 Valuation Criteria	4 4	3 3	2 2	1 1
	評価項目 Evaluation Item	期待している以上の到達 レベル	十分に満足できる到達レ ベル	やや努力を要する到達レ ベル	相当の努力を要する到達 レベル
人間文化 Culture / Society / Nature	(1)専門知識の体系的な理解(2)専門知識の適正な活用 (3)多面的理解 (4)主観内容の整合性	文化、社会と自然に関する専門的な知識を体系的に理解するとともに、その意味を文化・社会・自然と関連づけて適正に活用することができる。	文化、社会と自然に関する基本的な知識を体系的に理解するとともに、その意味を文化・社会・自然と関連づけて活用することができる。	文化、社会と自然に関する基本的な知識を理解するとともに、その意味を文化・社会・自然と関連づけて部分的に活用することができる。	文化、社会と自然に関する基礎的な知識を理解することができる。
論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	(1)論点の把握 (2)適切な根拠(情報、データ等)に基づき、他の異なる主張を踏まえて、自分の主張(結論)を、整合的かつ明快に表現できる。	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、他の異なる主張を踏まえて、自分の主張(結論)を、整合的かつ明快に表現できる。	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を整合的かつ明快に表現できる。	問題の論点を把握し、適切な根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を表現できる。	問題の論点を把握し、根拠(情報、データ等)に基づき、自分の主張(結論)を表現できる。
問題解決力 Problem Solving	(1)問題の発見 (2)情報の収集 (3)情報の分析・整理 (4)解決方法の提案	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決方法を多様な視点から提案できる。	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決方法を提案できる。	与えられた課題について、問題を発見し、解決に必要な情報を収集できる。	与えられた課題について、問題を発見することができる。
到達目標 (Objectives)					
・授業の中で解説する用語(例えば「反転授業」)の説明ができる。					
・教育効果高めるためのICTの活用方法について、具体的な例を示しながら説明ができる。					
・授業設計の考え方や方法を主として、具体的な学習指導案を作成できる。					

まとめ

- 教員養成課程で学ぶ学生にアクティブ・ラーナーになってほしいと思い授業を行っている。
- ALの技法を取り入れることにより、学生の多くは主体的・対話的な学びを実践できる。
- 評価基準を示すことにより、学生は見通しを持って積極的に課題に取り組むことができる。
- 相互評価により、自分（たち）の作成したものがどのように伝わっているのか・見えているのかを知ることができる。
- 他者評価と自己評価を比較することで、振り返りや次につながる学びが期待できる。
- 今後はより明確な評価基準を示すことで、積極的に学ぶことができる学修環境の構築を目指す。

文部科学省

大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」テーマⅠ・Ⅱ複合型

平成29年度 事業報告書

平成30年3月発行

編集・発行：玉川大学教学部内 大学教育再生加速プログラム事務局

連絡先：〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8812